

H・T氏 男性 通期ライブ生

合格体験記

すごく真剣で精一杯振り絞った1年目と、自然体で臨んだ2年目

■ 1年目の不合格

8月の一次試験が終わって、自己採点で合格を確信してから、何としてもストレートで合格したいとふぞろいや過去問を解きまくっていた1年目。いくつも事例をこなすほど、いろんな「書けること」が増えていきました。このときは、一生懸命考えていろんな論点でアピールすれば採点者にも伝わるという思いで、詰め込むように書いていたような気がします。

二次試験が終わって、受かっているのかよくわからないフワフワした気持ちと、結果を待つドキドキした気持ちの中、毎日、合格発表を待っていたのを覚えています。

採点サービスの結果は以下のようなだったので、合格してもおかしくないと思っていました。

- ・1つ目: B判定 172位/423名(上位40%程度)
- ・2つ目: A判定 4位/125名(上位5%程度)
- ・3つ目: B判定 47位/147名(上位30%程度)
- ・4つ目: A判定
- ・5つ目: A判定

結果をあけてみると、不合格。

事例Iが想定以上に低い点でした。

採点の不明確さに苛立ちを覚えたり、これ以上何をしても自分は無理だという虚無感に襲われました。

■ 2年目の合格

採点サービスの中でB判定だった予備校であれば、自分に足りない部分を補ってもらえると思い、

MMCさんのお話を聞くところから始めてみました。

採点の不明確さについてはMMCさんも講座の中でおっしゃっており、

誰が見ても一定の点数となるような解答を高速で作ることが重要とおっしゃってくれたことが納得でき、

MMC さんにお世話になることを決めました。

2 年目は 1 年目のような切羽詰まった感覚はなく、
毎週一定のリズムで答案を作っては提出し、フィードバックを受けるといったルーティンになっていました。

答案は MMC さんが言うように型とキーワードで高速に見やすくなっていくのが実感できました。

1 年目に比べると緊張感なく自然体で取り組むようになっていき、焦りや背伸びがなくてもいいものか、

たるんでしまったのではないか、なんて考える時もありましたが、がむしゃらにやっても結果はついてこないと

1 年目で悟っていたので、平常心で取り組みました。

「事例に合いそうなキーワードでキレイに書く」それだけが身に付き、それだけで二次試験に臨んだ感覚です。

試験中も本当に緊張はなく、事例を解いてきた半年間のルーティン作業の間隔で取り組みました。

その後、結果を気にすることなく、今日の合格発表を迎え、合格していたことにただ驚いています。

一応出していた採点サービスは以下の通りでした。

- ・1 つ目: B 判定 294 位/407 名(上位 70%程度)
- ・2 つ目: A 判定 19 位/134 名(上位 10%程度)
- ・3 つ目: A 判定 19 位/149 名(上位 10%程度)
- ・4 つ目: B 判定 75 位/198 名(上位 40%程度)

採点サービスの結果的には伸びているのか伸びていないのか全く分からない感じで、

合格していても不合格でもどっちもありうるなという感覚で発表を待っていました。

私の主観では、二次試験は何度受けても、受かってもおかしくないし、落ちてもおかしくないという感覚からは抜けられないのだと思います。なので、幸運をつかむまで無心で繰り返すだけだと思います。

無心で自然体で臨めるようトレーニングを重ねてくれた MMC さんに感謝しています。本当にお世話になりました。